

訓読教材

1

神様と世界 ③

FilJap 小学生部

* 目次 *

～人間にくださった祝福～

- 神様はなぜ万物をつくられたのか
- 三つの祝福
- 神様と人間の関係
- 神様の性質



■神様は万物をなぜつくられたのか

人間は誰でも、一人でいるのをいやがります。暗い部屋に何もないしたら、誰でもさびしくて、こわいはずです。いっしょに話をする相手がいたり、本やテレビがあれば、私たちは何もないときよりも、さびしくないはずです。家族や好きな友だちが近くにいると、なおさら良いでしょう。

神様も同じです。神様も一人でいらっしゃると、うれしくないはずです。神様がこの世界をつくられた方で、限りない能力をもたれた方だとしても、どれだけ孤独でさびしかったでしょう。そのような理由で、神様は人間と万物をつくられたのです。したがって、創世記を見ると、神様は万物をつくるたびに、良しとされたと記録されています。



私たちを生んでくださった両親は、私たちを見るだけでも喜ばれます。神様も同じです。神様は、喜びを感じようと、世界のすべてのものをつくりました。つくれたすべてのものは、それ自体が神様の喜びです。しかし、私たちの親の教えをよく聞いて、良い行いをすれば、親がより喜ばれるように、私たちが神様の愛の心に感謝すると、神様もより喜ばれます。それは、神様が世界をつくるときに感じた喜びよりも、

もっと大きな喜びです。神様は、このような大きな喜びを好まれます。より大きな喜びをさしあげられるかどうかは、私たちにかかっています。神様は、私たちを通してより大きな喜びを得ることを願われているのです。私たちが、神様と美しい愛を受け受けすれば、そのようになることができます。神様が世界をつくられた本当の理由は、まさにここにあるのです。

■三つの祝福

私たちが家を建てるのは、その中で生活するためです。自動車をつくるのは、早く楽に遠くへ行くためです。学校に通うのは、いろいろな人たちと交わって、私たちの生活に必要なことを学ぶためです。すべてのものがそうです。何かをするためにつくられ、生きています。

そうだとすれば、人間はなぜつくられたのでしょうか。人間は何をするためにこの世界に生まれたのでしょうか。

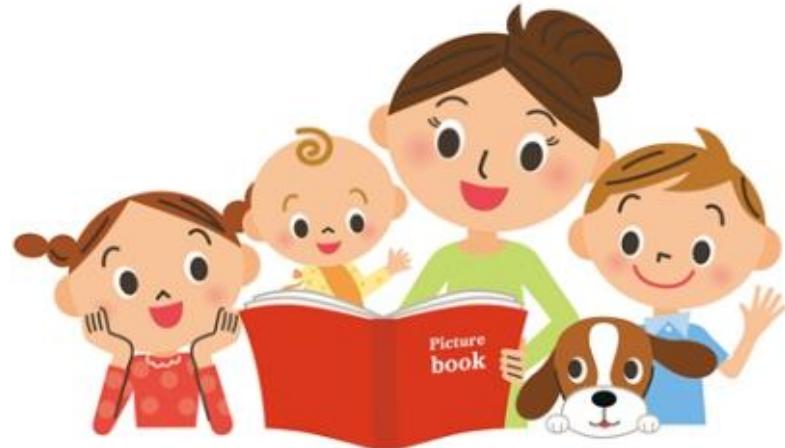
神様は、アダムとエバをつくられて、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地をしたがわせよ」と言われ、人間に三つの祝福をくださったのです。これについて、よりくわしく見てみましょう。



第一は、「生めよ」ということです。これは、心と体が一つになって、神様の愛を完全に経験しながら、子孫代々まで良い人でいなさいという意味です。私たちが神様の愛の心を完全に受け入れるようになれば、絶対に悪い人にはなないので、それが祝福なのです。

第二は、「ふえよ」ということです。これは、「家庭を正しく完成しなさい」ということです。アダムとエバが、神様のみこころのとおりに成長して、真の夫婦になり、家庭をつくって良い子女を生みなさいということです。神様の第二の祝福は、まさに、子女がすくすくとよく育って結婚し、可愛くて利口な息子、娘を生んで幸福な家庭をつくることを願う親の心と同じです。神様の愛の心に似た夫婦と子女が

家庭をつくるようになれば、社会も国も世界もみな平和になります。したがって、神様の祝福を受けた家庭は、すべての問題を解決することができる、重要な基盤となるのです。



第三は、「地をしたがわせよ」ということです。これは、「万物を正しく治めなさい」という意味です。神様は、人間が美しく、豊かに生きていけるように万物をつくられました。しかし、私たちが神様の第三の祝福の意味を良く理解できずに、自然を破壊

して環境を汚染すれば、私たちは生きていくことができません。第一、第二の祝福だけでいくら幸せに暮らそうとしても、この第三の祝福の意味を理解できなければ、幸せに暮らすことができないのです。

神様は、私たちに三つの貴い祝福をくださいました。私たちはみな、この祝福をなして、美しく幸福に生きていかなくてはなりません。神様は、なぜ私たちに、このような貴い祝福をくださったのでしょうか？それは、神様が子女としてつくられた私たちに、すべての愛をくださるためです。私たちは、神様がくださった、この三つの祝福のみ言をよく守り、そのとおりに生きていくことによって、幸福に生きられるのです。

■神様と人間の関係

神様が人間をつくられた理由は、人間を見て喜びたかったからです。ですから私たちは、神様を喜ばせなくてはなりません。そのためには、私たちはどのようにすればよいでしょうか。



万物と同じように、私たち人間も神様がつくられました。しかし私たちは、万物とは少しちがいます。神様が万物をつくられたときは、つくられた万物自体が神様の喜びでした。しかし、神様が人間をつくられた理由は、もっと大きな喜びを感じるためです。人間は、自分の自由な考え方と行動によって、神様に喜びをかえすことができるようにつくられました。言いかえれば、私たちが神様の愛の心を知って、自ら努力し、みこころにかなうように生活することにより、神様は喜ばれるのです。私たちは、まさにそのような理由でつくられたのです。

私たちが、神様の愛の心のまん中に立つようになれば、正しく、良い人間になります。正しく、良い人間と神様の関係は、心と体の関係に例えることができます。体が心の命令するとおりに動けば、喜ばしくて美しい生活をするようになります。心は私たちを正しい生活に導くために努力します。

体が心から正しい指示や命令を受けなければ、私たちは正しく生きていくことができません。私たちが正しく良い人間になるためには、神様の祝福のみ言どおりに生きなくてはなりません。正しくて良い人間



が体だとすれば、神様の祝福のみ言は心です。したがって、心と体が一つになるように、神様の
愛と祝福のみこころにしたがって生きる正しく良い人間は、神様と一つになります。 8

■ 神様の性質

神様は、どのような方でしょうか？



第一に、神様は無限の愛の心をもたれた人類の父母です。親がわが子を愛することは、昔も今も、人種や国によつても変わらず、受けつがれています。それでは、すべての親に一様にあるこの愛の心は、どこから来たものでしょうか？それは、わたしたち人間を子女としてつくってくださった、神様から来たものです。神様は私たちの善なる、真なる父母様です。天の父母様です。神様の愛の心は、すべての心の中でも、最も根本になる心です。

第二に、神様は、正しくて、善良で、美しい心をもたれた方です。私たちは、うそをきらい、真実を好みます。良い行いを見るとほめてあげたり、美しい景色を見ると感嘆したりもします。私たちがこのように、正しさと、善良さと、美しさを好む理由は、親や、先生から習ったからだけではありません。私たちをつくられた神様に、そのような心があったからです。私たちは、本来、神様のそのような心に似たのです。

第三に、神様は原理と法をつくられ、それをよく守られる方です。神様がつくられたこの世界は、大きなものから小さなものにいたるまで、すべて法則と秩序によって動いています。この宇宙が、少しのまちがいもなく秩序を守り、維持されているのは、神様がつくられたその原理と法則があるためです。万が一、その原理や法則がくずれれば、この世界はどうなるでしょうか？地が勝手に上がったり下がったりしたり、一年中太陽がのぼっているとすれば、万物はまともに生活することができないはずです。それで神様は、万物が良く暮らせるように約束ごとをつくってくださったのです。したがって、私たちがきちんと生活できるのは、神様が、ご自身がつくられた原理と法則によって、いつでもどこでも約束を守ってくださるからです。



第四に、神様は永遠で変わらない方です。神様は、いつでも、どこにでもいらっしゃる方です。太陽をつくる前にもいらっしゃったし、地球をついたあとにもいらっしゃったし、これから先も、いつまでもいらっしゃる方です。空にも、草の上にも、捨てられたゴミの中にもいらっしゃいます。そしてまた神様は、心を変えない方です。愛と祝福のその心は、世界のいたる所に、いつまでも変わらずに生きています。

～終わり～



引用文献：
『はじめての
原理のおはなし』